

他とよりよくかかわることを通して  
自分らしさを発揮できる子どもの育成Ⅲ



平成22年2月5日

鹿児島大学教育学部附属幼稚園

## はじめに

鹿児島大学教育学部附属幼稚園  
園長 今林 俊一

「生きる力」をはぐくむという理念を継続し、平成20年3月28日に告示された新しい幼稚園教育要領では、本年度から「体を動かすことや望ましい食習慣の形成」「友だちと話し合ったり、考えたり、決まりの必要性に気付かせたりすること」「幼稚園と小学校の連携」「預かり保育と子育ての支援」を充実させることが求められています。

本園におきましても、発達や学びの連続性を重視した保育研究・実践の充実に向けた研究を進めて参りました。その中で、幼稚園での子どもたちの学びを、子ども一人一人が遊びを通して自分なりに課題を発見し、試行錯誤しながら、生活に生かそうとする姿として捉え、最適な保育内容の設定について提案してきました。

一昨年度から、『他とよりよくかかわることを通して自分らしさを発揮できる子どもの育成』という研究テーマを掲げ、「自分らしさの発揮」ができる状況はどのようなときでどのような場面なのか、園の中での遊びや園行事などから探究し、また、「自分らしさの発揮」が深まり広がるためには、保育者としてどのようなかかわりをしていけばよいのかを、事例をもとに追究してきました。研究の3年次は、「自然」とのかかわりの中で自分らしさを発揮できる子どもの姿に注目し、昨年度までの「人」「もの」も含めながら、保育研究・実践を行ってきました。

今回の研究では、子どもたちが可能な限り、身の回りの自然物、自然事象、動植物と触れ合い、好奇心や探究心を高められるような遊びや生活を構成できる保育の在り方を、抽出児の追跡調査も含めながら追究してきました。それらのことは、子どもたちだけではなく、保護者と子どもが共に成長していけるような場や機会、情報を提供することによって、他とのかかわりの中で自分らしさを発揮する子どもを見直すという取り組みでもありました。そしてこれまでに得た知見をもとに、「自然」「人」「もの」を保育者が教育的な価値を含ませながら、子どもたちが興味・関心をもって活動に取り組むことができる意図的・計画的に構成された保育という視点で教育課程・指導計画を作成してみました。

まだまだ明らかにしなければならないことも多い実践研究ではありますが、先生方の忌憚のない御教示、御批正を賜りまして、今後の研究の糧にしていきたいと考えています。

また、本年度の公開研究会では、上越教育大学准教授の木村吉彦先生に「幼児教育の本質と幼小連携～子どもの学び・育ちを全人的かつ連続的にとらえる～」の演題の御講演を賜りますことになっております。幼児期との連続性を意識した生活科教育論や小学校との連携を中心とした幼児教育論などを研究されています先生から、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続について多くの示唆をいただけることに、心から感謝申し上げます。

最後になりましたが、御指導、御助言を賜りました鹿児島県教育委員会、鹿児島県総合教育センター、鹿児島国際大学、鹿児島大学教育学部の諸先生方、また分科会で司会を務めていただいた諸先生方に衷心より厚く御礼申し上げます。本日の公開研究会で得られましたことを生かし、保育研究・実践をさらに深めてまいる所存ですので、今後とも一層の御指導と御協力をお願い申し上げます。

平成22年2月5日

## 他とよりよくかかわることを通して自分らしさを発揮できる子どもの育成Ⅲ

はじめに

### I 研究の歩み

#### 1 これまでの研究

- (1) 研究テーマの設定理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 研究テーマについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

#### 2 これまでの研究の成果と課題

- (1) 「人」とのかかわりから・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- (2) 「もの」とのかかわりから・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

### II 研究の方向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

#### 1 研究計画

#### 2 研究の方法

### III 研究の内容

#### 1 「自然」とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 1

#### 2 研究の実際

- (1) 実態調査から・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 1
- (2) 研究保育・保育研究から・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 2
- (3) 事例研究から
  - (ア) I期(4～5月頃)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 9
  - (イ) II期(6～7月頃)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 7
  - (ウ) III期(9～10月頃)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 5
  - (エ) IV期(11～12月頃)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5 3
  - (オ) V期(1～3月頃)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6 1
- (4) 一人の子どもについての継続的記録
  - (ア) 「他」に興味をもって積極的にかかわっていくW児(年少)・・・・・・・・ 7 0
  - (イ) 気の合う友だちとかわる中で、自分の思いを伝えられるようになったX児(年中)・・・・・・・・ 7 5
  - (ウ) 自分の思いを調整しながら、友だちと存分に楽しむようになったY児(年長)・・・・・・・・ 7 9

#### 3 検証結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8 3

### IV 研究の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9 0

- ※ 参考資料 1 実態調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9 2
- 2 園内の木々の紹介(「幼稚園要覧」より)・・・・・・・・ 1 0 1

おわりに